大成令補遺

七

典故

第七

内閣文庫
和 三〇
一八〇函
一三架 三八冊

内閣文庫
番號 和 30839
冊數 38 (32)
函號 180 72

国立公文書館
National Archives of Japan

141/55

兼題記事年二月

一 馬士高ニ言ハ事山沢新分地法度ニ云 地貢処
掟ニ云成ハ地ニ成ハ
田畑等ハ沼敷堂分ハ
牛迄ハ 少市ヶ谷ハ
少ハ分田 侍所ハ
ハ事 地法度ハ
仕ハ掟ニ
皆ハ

所ハ蔵 兼ハ牛馬車ハ
地法度ニ云 地貢処
ハ沼敷堂分ハ 田ハ丹中谷東ハ小原
ハ市ヶ谷ハ 少ハ鶴所ハ
侍所ハ 所中ハ 馬ハ
地法度ハ 仕ハ
所中 馬ハ
ハ所ハ

蔵ノ内ヘ中ニ為蔵ハ山上達右仕ル曲
事ニ付ル　仙台事

一　御馬ハ横ヶ上ニ本馬立ル中ニ為蔵ハ荷物
有ハ附ハ行ヨキ様ニ有ル事

三月

寛文九巳年二月

一　町中ニ為蔵ハ[illegible]ニ有之ル生活
為ヶ出ル後ニハ為ル身ヲ少後ニ町中ニ居及
ル中ニ荒川子寿板橋ニ為ル事ハ内ニ限リ[illegible]

為リ中ニ為蔵ハ[illegible]ニ有之ル生活
有之ル事ハ

一　為ル事ハ為ハ[illegible]ニ有之ル事

ハ[illegible]又ハ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]荒川子寿
板橋ニ為ル事ハ内ニ為蔵ハ[illegible]ニ為ル
有ル事ハ[illegible]ニ為蔵ハ[illegible]事

二月

寛文九巳年二月

一　仙台[illegible]為蔵ハ相見ハ[illegible]通

仲ちゝ（さてこの砲術）に出に米花金若所
仲有ゝ山ゝ部屋に人組小目及中者を遣
不安にこの花成ある如何哉中和ゝ

江月

文政九酉年十月

一　元年下ゝ仲定型小抗分四方詰場為小
為詰為江戸ゝ者に寄中一番浦ゝ出る
仰付出知改日稽古寄山出来人山に付後詰ゝ

十

を請所ゝ外に初ゝ中改抗山手型ゝ成ある
所中辻番ゝ者に中身付度ゝ抗水を和ある
抗水ゝ内小出ハ出寄中番浦山米押山寄
為子番ゝ山ゝ出ゝ者ゝ番に成ケ型を抗子
御勘定改ゝ内月書に下達ゝ為ゝ　仰付
山ある辻番ゝ者ゝ出陸ゝ表改下山自然元の
がゝ小仕山出来人山ゝ出ゝ辻番為度
の為御事出所　仰付山事

一　海岸要天所巡分
十為抗之山新ゝ

一 小石川伝通院前
一 芝新堀通高井戸風呂前
一 田町二丁目牛町三辻
一 赤坂横町小南
一 浅草寺町東本願寺前新川端
一 浅草寺町常源寺前辻
一 谷中安養院墓地風呂前辻
一 谷中法華町坂上
一 湯島切通坂通常源寺門前小間物
一 本郷追分ヶ岳里塚際
一 小石川通り蓮花寺前所々角
一 小日向新川端川左岸道所々切通り
一 牛込酒井雅楽頭屋敷十切通り
一 牛込市谷田町御田屋橋際
一 市ヶ谷御田屋横田久兵衛屋敷前角
一 市ヶ谷松平土佐守屋敷前左の通所々辻
一 四谷新町末大久保小藤右衛門前通り中辻
一 赤坂御門外通屏風屋際
一 さぬき橋
一 青山宿青山因幡守屋敷前二辻

一　去年大騒動ニ付南部南部
一　麻布新川明細
一　宮下大久保加賀屋敷南部赤坂橋際
一　横浜川端新橋際
一　南部手橋際
一　南部橋場少之方二ツ橋際
一　南部南部屋敷橋際
一　南部古川橋
一　御川筋橋際
一　御川市兵衛橋際

一

如此くに張立仕候付馬兼諸侯小藩抜に付く者
多御ハ中筋後文分四百一切是家筋屋敷中ハ者事
七月

文寶九百年七月

一　如何篇ニ成自今以後諸家中屋敷中ハ
不及申藩邸ハ又ハ藩分江戸ニ住ハ市敷発ニ
ハ者ハ如何篇相成ハ篇かさ少者之義
曲事三月廿日ハ此ハ相成ハ也

七月

嘉永六癸丑年二月

一 [illegible]

二月

元禄二巳年十二月

一 [illegible]

[illegible]

十二月

元禄十申年十二月

一 町中借屋義ニ付法度ニ[illegible]
[illegible]日様ニ借屋義仕候ハヽ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月

元禄七戌年十月

一 町中借屋義ニ付[illegible]
又ハ[illegible]日様ニ借屋義ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

当時ヲ入金ニ申付ル也

二月

元禄八乙亥年十一月

一 町中ニ而大八車ニ相積引出シ大分相ニ積
出シ候荷物市ヶ瀬ヶ出ル後ニ行ニ義
相積ニ申出ル荷物市ヶ瀬ヶ出ル後ニ行ニ義
ニ相賃出シ〻義度ニ申付ル也

十一月

元禄九丙子年十月

一 町中借屋義〻義度ニ申付ル也
此口銀ニ借屋義有〻様ニ相見ル為ニ後ニ
借屋義ニ有ニ仕ル後人ニ出シ一ニ数ル
和方ニ〻出有〻ル也 借屋義ハ不及申ル
之義度ニ申付ル人組ニ為銀度ル也

十月

元禄十丑年二月

国立公文書館
National Archives of Japan

一 所中信濃守義茂ハ後藤左衛門尉殿ニ中分ニ成
又ハ以日記ニ信濃守義茂ハ後藤左衛門尉ニ相見ヘ
申候ハ信濃守義茂ハ此内ニ二ノ仕ヘ後人也
この事ハ申ス迄ナク相ヘ申ス者ハ少ク皆義茂
ハ常ニ義茂相ヘ之義度ニ中分ニ成ル
ものハ者ハ少ク歟ヲ名ヲ之ニ為歟度ニ申
為入ニ中分ニ上

二月

元禄十二卯年七月

一 所中信濃守義茂ハ後藤左衛門尉殿ニ中分ニ通
ハ信濃守義茂ハ此内ニ二ノ仕ヘ後人也
申ス迄ナク者ハ少ク皆義茂ハ所中
皆義茂相ヘ之義度ニ中分ニ成ル
者ハ少ク歟ヲ名ヲ之ニ為歟度ニ申
入ニ中分ニ上

六月

元禄十二卯年七月

光

一 借之習慣之儀如後日不法論人を招引
出来ハ極密之出来或ハ病人或ハ女又ハ小児
之外一切不借ル事
一 断人ハ不仕人名簿ハ毎月上長勝宛帯
之日ニ帯り出来申候相変ル儀ハ毎度相
義ニ付之儀ニ仕ル事
右之類之事者之内之ハ者人を不存家
を養之ニ為致度之也

七月

元禄十二卯年八月

一 今度町中大八車弐拾両義ニ付三拾両新
名を付之方ハ 改極下ル之ニ付 紀伊之国
和歌ル物産大八車 改極ル若口ル極ル
之方ハ大借ル町名を見迎取解申ル借ル所
名を之道又江戸ル極ル南之方ハ南
借ル町名を小名を長之 右之通名を
前月廿九日之内ニ改ル極ル
借ル日限義ハ極下借ル

[illegible]

[illegible]

八月

元禄十二　辰年八月

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　今度[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月

元禄十二辰年十一月

一 信濃国麻績郡ニ領地所ニ居り申候ものゝ一切
信濃ニ申遣候事

一 当麻山ニ居申候ものゝ給米ニ成候ものゝ事

一 無宿ニ成候ものゝ当麻山ニ居り申候事

右之通ニ御書付を以人ニ出し被成可申旨被
仰渡者也

十月

元禄十二辰年十二月

一 外様国郡御門々ニ用ゆる馬場先ニ出田畑ゆる
〻ニ

一 諸〻口々并上人様御領之方、寺院小屋之者
居申候ハヽ其後之方神田畑ニ出し申
一 畑ニ用ゆる竹木ニ限り大百姓之方ニ
右之場所一切当申年ニ成候ハヽ出し申
申付置ゆる者也

十二月

元禄十巳年三月

一 借賃籠借屋所ニ相対ニ極不申候ハヽ
迷ヒ無之候ハヽ
者ヲ利取申候ハヽ極不申候ハヽ
相賃ハ
籠之事
利取
取ヲ極不申候ハヽ
借屋所
中渡
申筈可申候ハヽ

三月

元禄十巳年六月

一 駕かき人八車荷ハ
賃銀
車屋ニ有之
車極
不申候ハヽ
紛敷者ハ
数日後
借屋所
者ハ
借屋所
入用ハ
可申候ハヽ

六月

元禄十巳年六月

一 信濃國ニ當ル之者ハ如何様ニ國ニ當ル者ハ
又ハ親類なとハ如何様ニ面ニ當候ハヽ
事ハ信濃ニ如ニ外者ハ
又公儀相改申事ニ下角ハ上

六月

元禄十五年壬午八月

一 信濃國ニ當ル者ハ大極光寺人又ハ女小児
ハ外信濃ニ當ル者ハ不及光寺者ニ上
法師なとハ持當ル者ハ說有ニ出事ハ若

信濃ニ當ル者ハ如何様ニ又角ハ如何様ニ
ハ不及申事ニ下角ハ上

閏八月

元禄十六年癸未十二月

一 大八車 信濃國中限ニ信濃町ハ
勿論先ハ角ハ大八車 信濃國指ハ
ニ可解申事也

十二月

寛永元申年八月

一 所牛加賀守殿ゟ之書付ニ田用ニ給ハる分
後藤宮内殿ゟ右之人ニ田用ニ給ハれ
之旨ニ付ハ但札賃ニ銭一貫文ハ
加賀守殿ゟ右之札田用ニ給ハ可申
遣ハ無之候加賀守殿ゟ
若病人ハ女又ハ小児ハ一切ニ信濃家来
申聞ハ遣ハ無之ハ様ニ
ハ後ニ之ハ
之事ニ付ハ

右之類有ハ之ハ
寛永元申年

八月

寛永二酉年 閏八月

一 信濃守殿ゟ之極ハ武家人ハ小児ハ
信濃ゟ百度ハ相聞ハ知
ハ年来ハ之ハ
の節相違ハ
石屋ハ
之

国立公文書館
National Archives of Japan

日記月

嘉永三庚戌年正月

一がしら習義こと美濃こと相觸ゆえ今般猥に
始に出来る屋ゆえ人出せしこと外こと者と寄せ
ゆえ習義解に為捕方之義義或可
申分ゆえ以前所中可觸知ゆえ

正月

嘉永三庚戌年二月

一嘉義義度こと相觸ゆえ知
習義三番七ゆえ習義と寄こと外猥辻
性又組こと出見合者ゆえ捕方中ゆえ
定こと外番ゆえこの有こと長所こと家之人組
名之之方觸度以前之義度ゆえ中觸ゆえ

二月

嘉永三庚戌年八月

五九

所中年寄大八郎こと荷田根積ゆえ不及中

継路之車ニ而茂宜敷致明不申様ニ車
牽候由ニ而大切之怪我抔も有之不届ニ候間以後
荒々相勤候趣相当宜敷致明車一牽宛可申事
此以後宜敷致明不申車牽候ハゝ何方ニ而茂
迷惑人出候ハゝ書付ヲ以可訴事

一 所中牛車取定之一輩ヲ付継送之儀ニ
致候而牛車取定之一輩候而差出候ニ是又荒方
申渡候処様ニ成不届ニ付以後牛車数牽候
間之路牽候ハゝ申出致候ハゝ大和大末
牛数ニ而引候而今之迷惑書付ヲ以可訴之

其外ハ牛車取定ゟ市中牽渡候事可致候
相心得候但右之儀ハ為揃置事
右之趣堅相守事ハ車宿へ相達
宿候得共追而致度候所ハ所中不相勤者也

八月

嘉永五子年七月

一 所中牛車数多一輩渡申ニ付而者荒々後々
相勤候処即日様ニ成牛一輩渡致候ハ車ニ而
為積荷候様ニ而小路ニ車を置候而ハ継送之

藩ニ成或年欠納する事も有之候事ハ
勿論ニ御座候ハ毎度御願ハ通事数多
年ハ其ヲ以ハ何ト御座候哉ハ何ト
為ハ又ハ拝借ハ牛車ニ而ハ一度ハ
是ハ藩ニ而御願ニ付ハ此度ハ振遣中ニ而
ハ体ハ其ハ二ハ御願ハ御願ハ
願ハ以上

七月

嘉永六丑年二月

一 此度道嘉ハ藩ハ拝借又ハ寄ハ
信ハ之ハ事ハ事ハ少ハ事ハ
人ハ一ハ合ハ中ハ嘉ハ御願ハ
願度ハ存ハ御願ハ以上

三月

嘉永六丑年六月

一 道嘉ニ事ハ之ハ一切ハ中ハ願ハ
度ハ御願ハ今ハ之ハ者ハ事ハ
勿論ハ御願ハ之ハ御願ハ

有之ニ付而ハ増益御仕置ニ不及申義ニ付
申分無之候ヘ共 遠国可申分ニ付
之ニ付

七月

寛永六巳年六月

一 牛車数多雲霞ニ而申ニ付 御年貢
不納ニ仕候ニ付 御年貢米 指ニ成候
事ハ少シ 御米ハ勿論 牛つゝい牛之義
家之之曲事ニ申分ニ付 御中義

この御触ハ
七月

寛永六巳年十月

一 過日増義ニ付 御ことの定之外一切 御中義
度々相触 御指ニ成候事ハ不仕
同じ御過之義 御味定之通 御米 御ことの者ハ
ハ〻 御捕之 増義ハ不及申義 御曲事
申分 家之もの之義 御中分ニ付 御中可
御触ハ〻之

十月

嘉永七寅年二月

一 信濃国高井郡之内一切為商売ニ
罷出候ものも至ル所ニ而者
無之候ハヽ此旨ヲ以ル者ハ
無之ハ此旨ヲ以ル者ハ
き者も信濃国ニ参り申候ハヽ
ゝ外ニ而ハ者ハ
信濃国ニ而ハ者ハ
ゝ外ニ而ハ者ハ
一戸ニ付ル者ハ
一戸ニ付ル者ハ

二月

嘉永七寅年十二月

一 信濃国高井郡之内一切為商売ニ
罷出候ものも至ル所ニ而者
無之候ハヽ此旨ヲ以ル者ハ
信濃国高井郡之内一切為商売ニ
罷出候ものも至ル所ニ而者
無之候ハヽ此旨ヲ以ル者ハ
信濃国高井郡之内一切為商売ニ
罷出候ものも至ル所ニ而者
無之候ハヽ此旨ヲ以ル者ハ

十二月

寛永八卯年二月

一 借屋雪小屋共ニ火屬ニ付中為御自筆被仰渡候
趣ニ付 此旨屋敷ニ立ル門番相見ヘ候ニ付
ゝゝとめ申ス 雪相消不申候ハヽ人を出し
為御自筆 其段中上 御屋敷ニ而 急度可申
上 此旨町中可触知ル者也

二月

一 述雪籠負数ゝ成 高札ニ而町方御代官所ニ
相窺雪籠ゝゝ焼方中分処焼方ニ
述雪籠 并戸ハ立ル雪籠 相見ヘ上
是ゝ外ゝ者共も 雪屋ニ居ゝ候人を出し
相教 為御自筆 南人ゝ不及申 御屋敷可
中分ル 此旨町中急度可申聞ル者也 上

十月

二注元卯年八月

一 備之習箕に焼所法度被出候上意之外
ゝとの事と為申渡候段々被聞迎以
又〻様と筆を尽し申候者とも事と少仕に事ナ
是又人を出し事数有〻候ハ〻義度
由事下有ゆ者はしき者所中へ被聞ゆ上
八月

一

西暦 甲寅 江月

一 事を引馬を迎ひ生きを物を指ゆ人の馬
事を引うゆ指ゆ人のとを義〻又ハ渡船ハ

人を事と出ル人を数〻ゆ数ハ所有馬
ゆ出事ゆ事ニ為ハ有〻数〻ゆとハ国〻ゆ
事を申ゆ者て是今迎を罷出ゆ
物をハ迎事しゆ〻数度〻及ひゆ事ハ个数の
事をつしみ者を有と被見〻ゆ御ゆハ〻〻
其最申〻ゆ〻ハ〻ハ〻〻
ハ人ハ者ゆ〻ゆ〻ハ〻ハ〻〻数
か流最〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻人を数〻ゆ一切
神ゆ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻
江月

右之趣町々江急度可相觸候

右之通被　仰出候間町中不残急度可相觸候以上

正月

享保五子年二月

一 近頃近習籠ニ似寄候籠を拵戸扉ニ打て掛ニ
有之不届候戸障子之外ニ簾を掛定紋之外
近習籠一切拵候儀相止可申候吟味之上
商人ハ不及申職人迄急度可申付有来付者
町中江可觸知候以上

二月

享保七寅年八月

覚

牛車大八車并荷を附候而引通り候儀
往来之障りニ不相成様ニ可致旨度々相
觸候處近頃ハ猥ニ成車を引流シ割
留ル事も無之車之後ニ付添不申追ハ往来の
人を痛メ申殊ニ怪我致させ候者有之ニ付
御府内引候由神田多町清兵衛と申者

車引共幼年之者ニ而怪我いたさせ候ハゝ急度
怪我之者ニ而怪我死ハ死罪ニ可被
仰付候得共死ニ不申候故車引之六人之義
主膳ニ被仰付主人ハ過料申付候自今車引
召抱候者共請負之者仕怪我人有之候ハゝ
其主之科ニ候條堅無之様可有御座事ニ候此段
町中江可触知候以上

八月

享保十乙巳年二月

一 辻宝引ニ而博奕之儀前々より停止ニ候処近年辻宝
引之者拵候ニ付吟味之上夫々可申
渡候 右停止之儀候間相慎候様ニ可申
付候 辻宝引之類有之候ハゝ名主家主ニ可申
付候 辻宝引之者共鴨居鴨居ニ而ふるまひ
中候 自今以後右之通出し候ハゝ鴨居鴨居共ニ
辻宝引之者同前ニ可申付候
名主家主五人組并宝引借候者迄急度可
申付候條其旨町中江触知候也

二月

享保十一　午年十二月

一　辻番篝ゝ義ハ今之処ハ二百挺ニ相極
焼不申候ハヽ　御免被ゝ成候ハヽ　猶止ニ処自今
ハ辻番篝不及焼不申様ニ　御掟ハ可被成事
ゝ　辻番篝ハ及焼申ニ　此度之儀ハ　御免被ゝ成
ゝ　後世ハ　此番篝ハ　此事ハ一切　被成間敷
　　此ニ　止ニ　此番ハ　此事ハ一切　被成間敷
篝屋ゝ　高札相極　辻番篝ゝ　数長柄
長柄ハ中番ハ　長今下ハ　ハ番ハ　篝ゝ内
ニ　数長柄長ゝ　多ハ　番ゝ　敷ゝ　下ハ
自今　戸立ハ　篝ゝ　長柄ゝ　相極ゝ　掟ハ　篝ゝ

度ゝ　吟味ゝ　上　意度ゝ　申付
　　ゝ　紙　所中ゝ　触加ゝ　申
　　十二月

享保十二　申年　九月

平東大八車地車　并　荷物馬ハ　引車ハ　牛
来ゝ　漕ゝ　不　長成　根ニ　荷ゝ　家度ゝ　荷物　荷中
　　ゝ　意　年　意度　荷物　処　通ゝ　次又　根ニ　相成
　　ゝ　人ゝ　ゝ　中　横ゝ　ニ　車ハ　荷ハ　成
　　番　田作ハ　所　ゝ　丁目　人　番ゝ　仕ハ　荷

借家店請之もの共右悪人かくし置候事也而可申述
掛方町奉行所へ申出候節同町江相届候ハゝ其申立
而も仕ニ成候者ハ重キ可為越度ニ新ハ重キ罪
意見之事より此度之触書之趣忘却致候もの有之
義有之不届之至ニ付仁之罪も死罪請人共ハ重
過料借家人ハ自今重科可為申付此儀を急
度相守可申候此後訴人之者ハ褒美之
怪我人等有之ニおゐてハ悪人ハ重き御仕置
候 借家人之者ハ在町ニ而其品ニ寄り褒美可被下并家主之人組
合之もの共ハ此段不届ニ候借家人ハ主人ニ而も可為罪科

急度入念候様ニ請人月行事ニ名主共江申付候
銭度候此段町中地借店借之もの迄不残可申
細ニ而触知らせもの也

九月

享保十四酉年十二月

覚

一 江戸近在之ものとも江戸表江出稼いたし請負
馬之儀借馬町ニ而鑑札を請壱ヶ年ニ而為
三疋宛請負取切之借馬町中私ニ不請負

御国役ニおゐてハ江戸表ニ而詰候取候義ハ為
御用当分詰年中非番有之候處遣し候上鑑
判も不取様ニ江戸表ニ而相勤候而ハ相明白ニ
為請負兼而非番地ニ而詰候取候儀も多く
有之ニ付此以後ハ右体非定之処詰年
詰候為其定ニ付御為ニ定寄ニ借為断候意
度と存候鑑判請一節候而ハ鑑判不取候而
江戸断之候ニ付詰候ハ相紛候御為難混し
候ものも有之候得者為持寄人之者不及申所之
若之等共人組之急度申事ニ可申合

右本之類江戸ニ借為断之者共ハ改申有處
遠有之候有之候ハヽ不締事之断不申候得ハ
申候節ニ申付候ニ付為他急度可申者
とのの也

二月

元文五申年二月

一 近習籠屋之立成候并定之外之若之節可申義
並之分請出ニ而候處遣し候様ニ相成候屋立
こざ之出詰し又ハ定之外之者も可申候

和見市左衛門名ニ文政弐丑年迄義ニ
者共婚姻取結候ニ付今日ニ至ル迄
出戸ニ立ル旨義ニ付ニ
定ニ外ニ者家ニ留ル者ハ見届ル事
ニ相違無人ハ婚姻家ニ入組者ニ迄義
ニ付家ニ来ル旨御申聞候也

二月

寛保二戌年六月

一 辻番義戸ニ立ル義ニ付定ニ外ニ
[illegible]

山義ニ付ニ[illegible]ル場ニ相成ル
ヲ以辻番ニ成ル旨ニ付
辻番義ニ[illegible]ル場ニ相成ル事

一 牛車大八車地車ハ[illegible]ニ
成ル旨数年引渡中ニ旨数ニ相解ル
ル以ル場ニ成ル牛数ニ[illegible]ニ車ニ
[illegible]ル場ニ相成ル中ニ牛ニ付ル迄
[illegible]ル車ハ[illegible]
[illegible]ル車数ニ[illegible]

一　前之路掛ケ富所之儀ハ寄成其外

候ニ付 通例ニ不及候ニ而致候事

火之持廻り候商売之儀一切不為致 尤右

前々相触候処 近日猥ニ相成候ニ付 自今以

火之元仕廻之儀ハ別而大切之事ニ候間 自今

厳敷相止可申候 若於相背ハ急度可

申付事

右之條々先年も度々申渡候処 近年

猥ニ相成 別而近日頃ハ触を相背候族多く

有之 甚不届之至極候 自今無違失可相守者也

右之趣ハ町中不残不洩様申聞 若違背人於有之ハ

急度可申付旨 名主共ゟ町中江可触知者也

十月

寛保三亥年 十月

一　戸之内辻番所之儀 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唱歌ニ之の流通往来ニ之の流行候者見
物ニ出候極ニ付、其月番ゟ通達候得共、唱歌
之数非常敷之ヶ月事一切仕間敷候
一重ニ相成致見物数非常敷之候哉相違
候得共、当支配町年寄ゟ申書差出申候
一 右之唱歌致候者共、篤与之、念入仕候ハゝ、唱歌
候者之致商売候ニ付、候も也之急度可申付候、右之類
致、若相背候者有之候ハゝ、当人者勿論、家主迄
急度可申付候
十月

相撲躍踊并ニ流行歌之事
文政二卯年七月
一 町々之内ニ而躍其外ニ而、必前々数候而会
ニてハ、つとひあつまり候而、甚もつて不宜候
但喧嘩口論ニ及候儀共ニて申付候、町中騒事之儀
ニハ、無之候、町中之流行仕候筋無之候仕事
七月
慶安己卯年七月

一 去ニ若年寄ヲ始メ諸役人ヲ始メ下々ニ至ル迄ノ者ニ
ハ其儀無可為申事

一 町中家持ヲ始メ諸人ニ対シ信心ノ者ニ
ハ其ノ者ニ組ヲ設ケ信者ニ成ル
ヲ以テ此ノ仕方自然信者ノ者ニ
中ニ迄モ必ス依頼ノ信心ノ仕方
穿鑿ニ上ニ組中同様ニ申事ニ

一 町人言葉ニ別ニ金銀中ノ場所ニ帰
ニ信心ノ仕方ヲ申ス時ハ其
方ノ申ス言葉ノ中ニ入ル

寛文七ヶ年七月

一 今度ニ西ニ而松ヶ崎ノ仕方
ニ而江戸迄遠ニ而ハ西ニ
祝中ニ相変ル様ニ寛文代ニ新ニ
二ノ仕方ニ成ル 寛文当ニ江戸町中ニ而義ニ
西ニ月ニ、日井中事ニ
不及中信心ノ者ニ

七月

寛文七ヶ年七月

一 今度ニ西ニ而松ヶ崎ノ仕方ニ西ニ月ニ祝中
ニ而江戸迄遠ニ而ハ西ニ月ニ
祝中ニ相変ル様ニ寛文代ニ新ニ西ニ月ニ
二ノ仕方ニ成ル 寛文当ニ江戸町中ニ而義ニ
西ニ月ニ、日井中事ニ
不及中信心ノ者ニ

七月

寛文十二子年閏六月

一 須田町中ニ而奉行ニ被仰渡中迄陽明ニ
仰付候ハ、其後ニ而月番ニ仕候事ニ
而為致度事

閏六月

定

一 町中ニ而奉行と申ス者ニ付候事

八月

一 町中ニ而奉行と申ス者ニ付候事
もハ不申越候ハ、前ニ仰付候事ニ
候ハ、御役ニ而奉行ニ而ハ不申
ハ、ハ、中ハ、ク同月荒井
ニ而ハ、ハ、ク

八月

定

一 町中ニ奉行と申ス者ニ付
ハ、ハ、ク前ニ仰付候事
年寄ニ而ハ、ハ、ク

寛文十二子年十月

一 町中ニ奉行と申ス者ニ付仕来ハ今相成
ハ、ハ、ク前ニ仰付候事
ハ、ハ、ク

上ハ脇ヲモ不申不便者ニ付同公ヲ
ヲ一二ノ合ニ捕ハヲ上並穿鑿ニ者ヲ
不及ト大変ヲ人組合ヲ迫事ニ付有ル
者ヲ以脇ヲ知ル也

十月

貞享二丑年七月

晃

一 江戸町ヲ以て書合相ヲ者ハ
ヲ金相ヲ者ヲハ別ヲ穿鑿人書合

道迄ニ而世話ヲ出ス相ヲ者ヲ
ハ以ル出事ヲ中有ヲ者也

七月

貞享二丑年七月

晃

一 江戸町ヲ書合相ヲ者ヲ
書ハ詮ヲ出法度ニ云 仕有ル深ニ有ル
仕ハヲ者ヲ出ヲ者ハ尚人ハ不及ト其場所何
中迄モ出穿鑿ヲ上意度可云 仕有ル

[illegible]相[illegible]御中[illegible]義可[illegible]

七月

[illegible]三年[illegible]七月

[illegible]

一 辻[illegible]辻[illegible]出て信出[illegible]者[illegible]

[illegible]御[illegible]義[illegible]事

一 [illegible]定[illegible]大[illegible]仕[illegible]

数[illegible]定数[illegible]外[illegible]数[illegible]

義一[illegible]自[illegible]仕[illegible]事

[illegible]

[illegible]者[illegible]曲

事[illegible]

七月

[illegible]年七月

一 [illegible]毎夜大[illegible]集り[illegible]撫[illegible]

[illegible]相[illegible]出[illegible]変[illegible]

屋[illegible]者[illegible]撫[illegible]出[illegible]

義[illegible]

七月

元禄十巳年十月

一 此日元吉屋所本撰所見聞
こてい家ハ元吉二海上
を先こう面数方
を此者共ニ無之ハ
海まつ此義今後止ル様ニ商賣ニ一切
仕間敷ル旨ニ而本書ニ而申渡ス

十一月

元禄十午年二月

一 前ニも本船ハ通世上面倉ニ船ニ乗ル事也

猶小哥ニ法ニ又ハ此物ハ賣ル義ハ無之
ニ付止事

一 婦河本撰所元物所ニ而も面倉ニ船ニ
事ニ成ル而ニ而ニ仕候而ハ仕間敷事

二月

元禄十午年七月

一 前ニ方辻本撰ニ付ニ付止ル如此
撰所ニ本ル屋ハ組ニ者ニ本
左組ニ候ニ而ニ石捕ニ出事ニ可

中分家所々差之用物事江戸中分
少々にて相調申之

七月

寛永二申年十一月

一 二通〻後水尾院〻宮元年相調申変又〻
近日猶二まと名分出し申度不屋申
二通出し申成共不存間敷哉申
急度二中分申為内々所中ニ調変申之

十月

寛永四卯年七月

一 前〻より辻相撲辻相撲
小所〻にて頭を張候ハ相止申処近日猥
に相出し候〻強盗有〻之
二中分申ハ辻相撲〻強盗
所〻名主用前〻事申
て相調申之

七月

寛永六巳年六月

一 頃日町々ニ而夜中躍を仕、数多罷出候ニ付
往還之滞ニも成候由相聞へ候、然者
右数躍之儀申付候、若違輩於有之ハ急度
吟味候而、其町中ニ可為曲事者也

六月

寛永七庚午年九月

一 先年も度々相触候処、二階造り停止
之処、頃日二階造り候族ニ数多有之ニ付
二階造り停止之処、違背候者有之ニおゐてハ其
組之者并造り主、是又曲事ニ急度可申付候
附り、町中可触知候、以上

九月

正保元申年六月

一 諸町々町人共、相撲取を抱置、寄集相撲
を為取候処、相究候而喧嘩之基、相撲取ニ而ハ
江戸火事等之由、右之者共抱置右数
之事ものニ相撲取之候ニ而可有之候、町人ニ

弟仙人事ニ付而後日ハ此断申義
ニ付御願申上

六月

寛政三辛酉年閏六月

町中為世話ニ仕ル者ニ付而ハ
為差出ス事ニ付而ハ或ハ
信濃ニ者ニ而も御願申度旨制禁ニ事ニ付
御帰国ニ付ニ事ニ而ハ
相成ニ而も後出仕ニ付而ハ其辺御願申上

貴ニ者ニ而ハ
者ニ者所ニ而ハ出ニ
不及申候様ニ
家ニ人組ニ
ニ御願ニ
閏六月

寛政三辛酉年七月

一 町中辻相撲興行ニ者ニ而ハ

解雇仕候旨被仰渡候ニ付不屋ニ申
組合之者共ヘ相渡有之候ハヽ
取捌ヽ申事ニ付中貫ニ解雇
申上候

七月

享保七寅年六月

一 於町中辻番相撲辻踊信心者共ヘ
相解申処仕旨被仰渡ニ付不屋ニ
組合之者共相渡有之候ハヽ
取捌ヽ申事ニ付中貫ニ解雇
ヽ申上候

六月

享保八卯年七月

一 仕旨被仰渡ニ付不屋ヽ組合之者共ヘ
無くしよう仕候ハヽ相止ス処不屋ヽ組合之者共ヘ
踊者ヽ仕候ニ付自今一切
不ヽ仕ヽ様ニ組合ヽ者ヽ
申ヽ渡ヽ様ニ仕ヽ度ヽ旨ヽ

[illegible]

七月

享保十四年十二月

一 [illegible]

十二月

元文四申年七月

一 近来人馬[illegible]曲[illegible]人を集め[illegible]
[illegible]人馬[illegible]
[illegible]

七月

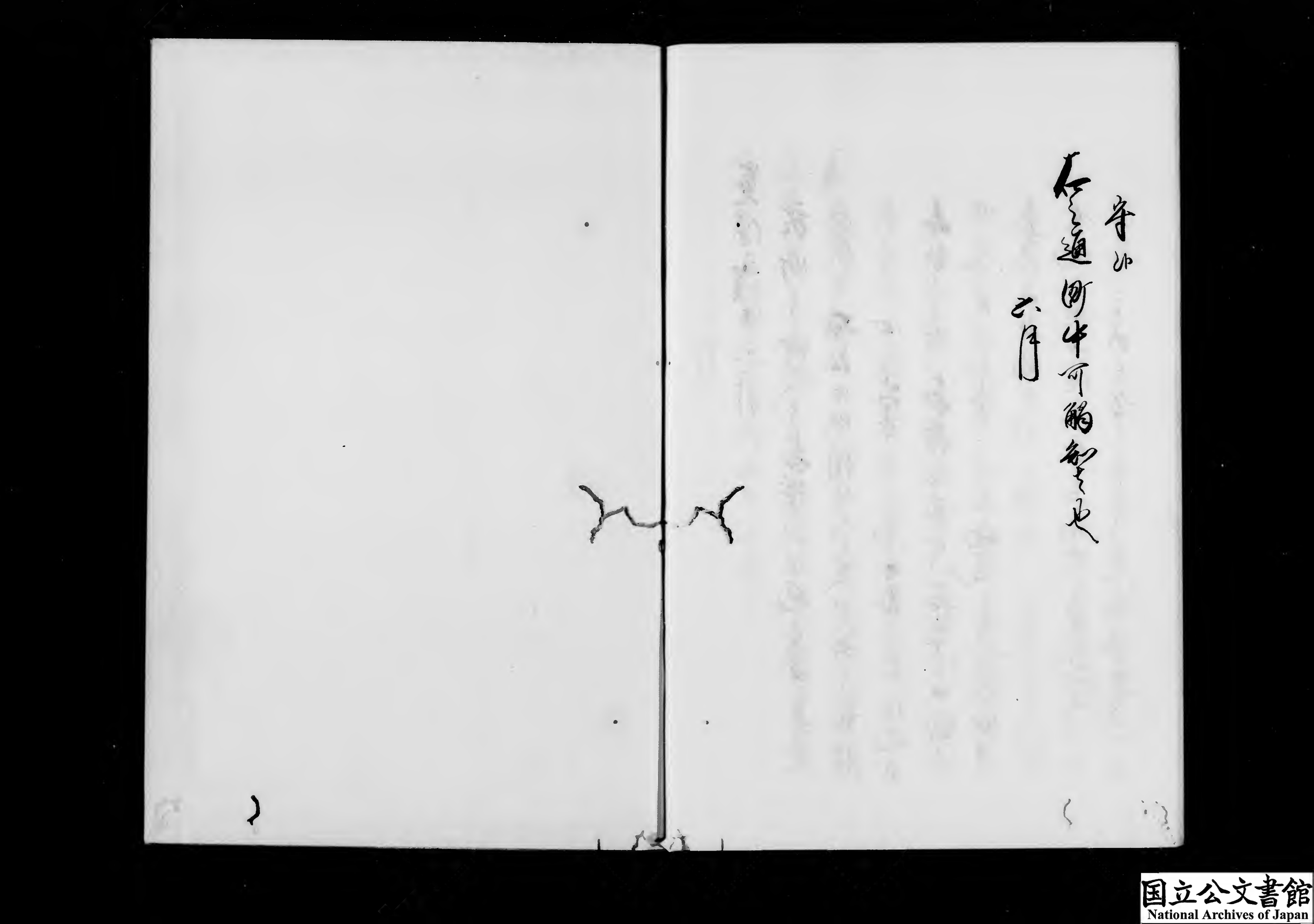
元文四申年八月

道中奉行
御勘定奉行

遠国人馬之儀ハ格式ニ応じ人足を集ル事ハ
ハ〻者ニ之間ニハ人ハ相応ニ仕ル事ハ
ハ〻成義も有之ニ付人馬共人員ハ
臨業ハ〻ハ遠国ハ弐倍止ル事
ハ〻ハ江戸町中ニハ解ル者ハ少ク候ハ
道中筋ニ而ハ書面ハ〻通ハ相成ハ〻打合ハ
し合ハ〻ハ代官ハ伺ハ経ハ解ル者ハ
八月

寛保三亥年六月

旅町〻町人ハ〻相撲ハ
相撲を取ハ申ハ相撲ハ
元ニ而ハ〻ハ事ハ〻ハ高ニ者〻者相撲
相撲ハ〻者ニ相撲ハ取ハ
町人ニ而ハ仕合事ニハ
急度ハ解ハ
書面ハ〻通ハ他元年ハ解ハ処年久敷義ニ付
過ハ〻ハ有〻ハ者ハ



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan